

# 中海は宝物

未来守りネットワーク活動記

<15>

11月上旬の中海で、50人以上が参加して第7回アマモ移植イベントをしました。水門撤去後に増えたアカエイが、アサリを食べようと砂を掘り返し、過去に移植した境水道のアマモ場の面積は小さくなっていました。米子市大崎に植えたアマモは初夏まで順調でしたが、大雨による塩分低下で枯れてしまいました。

最近移植したアマモは、種をまいたマットを挟む金網に守られて生育しており、今後も移植を継続する予定です。

今年初めて、国土交通省が新たに造成した安来市島田地区の浅場でも、島田地区中海流出水対策協議会のメンバーや市職員の皆さん

## 新しい浅場

とアマモ、コアマモを移植。8月の協議会の勉強会では、中海のアマモ類の変遷や現状を説明しました。

この島田地区、目視では素晴らしい浅場です。3月に完成したばかりで海底の砂が安定していない所も多く、発芽するか不安ですが、可能性がある限りの移植に取り組むことにしたのです。発芽しても堆積する泥に

## 水質改善にアマモ移植

覆われたり、梅雨末期の大雨による塩分低下で枯れたりするかもしれません。コアマモは大橋川など塩分の低い場所でも育つので、島田地区はアマモよりコアマモの方が適していそうで行い、どのように環境を改善したらアマモ場が再生できるか協議会と議論し、国交省などに提案していきま



アマモを移植するためのマットを準備する安来市島田地区中海流出水対策協議会のメンバー

成した浅場でも増殖が期待されます。親水護岸で、流通している二枚貝のヨコカイもわずかですが確認できました。

今春、島田地区と米子市の粟島神社の間にある沖の瀬で、チヌ(クロダイ)がひと網数十匹捕獲され、アオデカニ(タイワンガサミ)も捕れたと漁業者から聞きました。江島・大根島付近から、米子湾側に漁場が変化しているようです。

確かに安来から米子にかけた浅場の水質は、ここ1、2年の間に非常に良くなっています。浅場造成で二枚貝を増やし、藻刈りを推進することで、水質はさらに改善されていくはずですが、

行政機関も垣根を越え、地域住民とともに、中海で何が起きているのか、本格的な総合調査が必要ではないかと考えています。(未来守りネットワーク理事長・奥森隆夫)